

事業者ヒアリングの結果について

ヒアリング事業者	犬山タクシー株式会社、名鉄西部交通株式会社
ヒアリング期間	令和3年7月28日（水）、8月27日（金）

1 タクシーの利用状況について

- ・医療機関への利用が多い。地域の開業医、総合病院どちらも利用がある。総合病院の中では江南厚生病院への利用が多い。
- ・買い物の利用も多い。目的地はスーパーマーケットが多い。
- ・パチンコ店や喫茶店などへの利用もある。
- ・タクシーの利用が半減している中、午前中の利用は比較的多く、特に高齢者の通院利用が多い。この時間帯は、コロナ禍前と比べ7～8割程度の利用となっている。
- ・企業関連や夜の利用者はコロナの影響でかなり少なくなっている。
- ・妊婦や子育て世代の利用もある。

2 ニーズとサービスのミスマッチの状況について

- ・要介護者への対応はタクシー事業者では限界がある。
- ・時間帯によっては、予約に対応しきれない場合がある。

3 デマンド交通の導入について

- ・導入によるタクシー事業者への影響には十分な配慮が必要。例えば、江南厚生病院が目的地に加わることになる、タクシー事業に大きな影響が出ると思う。
- ・扶桑町にはバスがない。近隣の状況を見ても、ないのが当たり前ではなく、公共交通としてあってもいいのではないか。
- ・タクシー事業との住み分けについては、便利にしすぎない、“安いタクシー”にしないことが重要。ドアツードアが求められているのであれば、新しいデマンド交通の導入ありきではなく、既にある乗用タクシーの活用も検討すべき。
- ・停留所まで歩ける人を今のうちに増やすことも導入の目的になるのではないか。
- ・路線バスの拠点とつなぐなど、既存の公共交通との組み合わせを考える必要がある。
- ・福祉施策との連携が大切。移動に困っている人に手を差し伸べる手段を複数持つことも有効だが、今ある制度の改善や拡充で目的を果たせることもある。

- 30 分に 1 便の運行と仮定すると利用者数は限られる。乗合率をいかに高めるかが重要だが限界がある。運行区域が比較的狭い場合には、乗合は成立しにくくなる。利用したいときに利用できないケースが多くなると、この制度を維持していく上で一番大きな問題点となる。
- 利用者数がゼロということはないと思うが、営利目的ではないため、町として単に利用者数を増やすことなく、必要としている利用者層に広がっているかを検証していく姿勢が大事。

ヒアリング事業者	J A 愛知厚生連 江南厚生病院
ヒアリング期間	令和 3 年 8 月 31 日（火）

1 扶桑町民の患者数について

- ・令和 3 年 7 月の扶桑町民の患者数については以下のとおり。
- ・総数は 3,288 人で、平日の 1 日当たりの平均は 157 人、土日祝日の 1 日当たりの平均は 13 人。

・年齢別 (単位: 人)

年齢	0-17 歳	18-59 歳	60-69 歳	70-79 歳	80-89 歳	90 歳以上
患者数	424	1,058	377	812	543	74

・地区別 (単位: 人)

地区	高雄	山那	小淵	南山名	斎藤	高木	柏森	登録なし
患者数	1,181	83	90	400	429	210	893	2

2 来院者の多い時間帯について

- ・7:45~12:00 くらいまでがピーク。その後診療が終了する 17:00 にかけて減少していくイメージ。

3 平均滞在時間について

- ・診療のみと仮定すると最低でも 30 分、薬の処方を含めると 1 時間程度か。敷地外の薬局での薬の処方や検査の有無により異なり、一概には言えない。

4 来院手段について

- ・調べたことはないが、自家用車の利用が多いのではないかな。
- ・駅からのバスの本数が少ないこともあり、バスの利用者は少ないと思う。

5 デマンド交通の導入について

- ・利用者を運んでくれるという意味で、病院としては歓迎できる。
- ・扶桑町の東側など、江南厚生病院から遠い場所からの利用は運行効率が悪くなるのではないかな。利用したくてもできない人が出てくるのでは。
- ・再来受付は 7:30 からだが、必ずしも 7:30 に受付をする必要はないため、当面は 8:00 からの運行でもよいのではないかな。
- ・利用してもらうには、利用方法や予約方法などをサポートする体制が必要ではないかな。
- ・ロータリーに乗降場所を設ける場合は、設置場所について、名鉄バスとの調整が必要になるかもしれない。